

2014年11月19日(水)

## 所論諸論



降籟 達生  
ハタコンサルタント代表取締役

### 親子2代で働く

親子2代、同じ仕事をすることに抵抗がある人がいる。「父親と同じような苦勞をしたくない、父親の仕事なんか嫌いだ」という思いがあるのだらう。

でも本当に父親の仕事が嫌いなのでらうか。

「いつも家でグータラしている」

「いつも建設業は先が見えないと言っている」

「体がきつそうで、いつも家でゴロゴロしている」

そんな父親の姿を見て、自分勝手に「こんな仕事だらう」と思い込んでいるのだらう。

父親が現場監督をしている人がいる。その方が

幼いときのことだ。

「大雨の日に、いつものまにか祖母がいなくなっ  
てしまいました。家族全員で探していくと、祖母は父が初めて架けた橋に

て自分と3代に渡って建設業に取り組むようになったのは大雨のおかげだ。  
また別の人は今、建設職人をしている。

いました。父が『心配したんだぞ』と怒鳴ると、祖母は『息子(私の父)が架けた橋が落ちていないか心配で見に行った』と言いました。それを聞いた父は『俺が架けた橋が落ちるはずないだらう』といいながら涙ぐんでいました。」

「私の父は、住宅の左官業の仕事をしていました、とても無口な父で、ほとんど話したこともないくらいでした。毎日汚れた服で帰ってくる父の仕事をかっこわるい仕事だと感じ、あまり父のことも好きではありませんでした。」

と、子どもには自分のお父さんがみずぼらしく見えるものなのだらう。  
「私が小学生のある日、自宅を改装することになり、父が自ら自宅の壁を塗り直した。私は初めて父の姿を間近でみました。てきぱきとした動作で仕事を進め、きれいに壁を仕上げている姿を初めて見ました。これまでカッコ悪いなんて思っていた

お嬢さんに対して、将来『社長』と呼ぶのは抵抗があります。しかし何よりお嬢さんが社長である父親や私たちの仕事ぶりを幼い頃から見ていて、その上で後継する気持ちになってくれたことがうれしいのです。私はお嬢さんについてきます」  
かっこ悪い、嫌いだと思っていた父がある日「ヒーロー」のように見

いた父でしたが、その姿をみて見ほれてしまいました。あの感動は今も忘れません。」  
ある建設会社の女性後継者は、現社長の娘さんだ。以前は「社長(父)が嫌い」だったそうだ。その会社の社員さんに聞いた。  
「正直、10年前まで会社の事務所で遊んでいた

はなんと英語で話し始めた。  
私は父が英語を使うのを聞くのは初めてのことだった。何を言っているのかさっぱり分からない。  
しかしそれまで酔っぱらいだった父が、その日から「ヒーロー」に見えるようになった。  
この文章を読んでおられるお父さん。たまには家でも仕事をしよう。奥様やお子さんを現場に連れて行こう。ついでにお子さんの友達も一緒に連れて行こう。そして仕事ぶりをかっこよく話そう。時にはヘルメットもかぶろう。

私の父は海外から資材を調達する仕事をしていました。しかし家ではいつもウイスキーの水割りを飲んでいました。友人を招いては酔っぱらって倒れて寝ていた。しかしある休日に、家に電話がかかってきた。その電話に出た父